【大阪府】

大阪教育大学附属高等学校平野校舎
こども食堂連繋プロジェクト

高校生ボランティア・アワード2024

「こども食堂の意識改善に向けて。」

活動概要⏩⏩

私たちは、子ども食堂に対する偏った意識の改善をテーマとし、課題研究を行っています。

~~~~~~~~~~~~~~~~~活動の流れ~~~~~~~~~~~~~~~~~

<子ども食堂の意識改善策>済
本校が属する平野区内における子ども食堂目的別マップの作成を行う。

＜高校生対象のボランティア参加＞未　7~８月に予定
対象者がボランティア活動を経験し、子ども食堂の実際の様子（実態）を自分の目で直接確認することによって、意識改善を目指す。

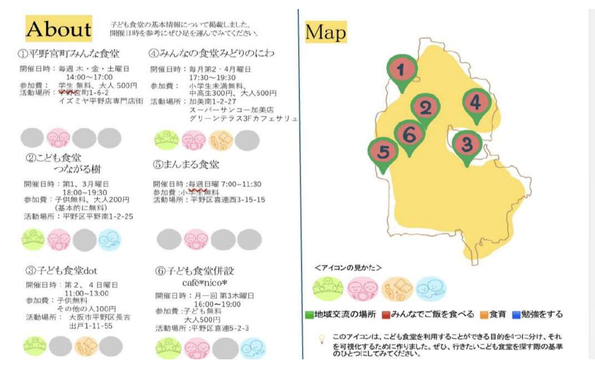
＜こども食堂でのワークショップ開催＞未　冬頃予定
平野区内にあるこども食堂さんと協力して、近所の小学校や学校と連携してイベントを開催する。

~~~~~~

「憩いの場、こども食堂。」

私達は、こども食堂が様々な**人の想いに寄り添い、**憩いの場であるという認識を広めるために、活動しています。
また、私達はフィールドワークや研究活動のモットーとして、**「人と人とのつながりを大事する」**ということを掲げています。
私達のチーム名である、**「こども食堂連繋プロジェクト」**という名前には、人と人とのつながりを大切にしていきたい。という願いも込められており、**「連繋」**という漢字にこだわっています。
あるこども食堂に伺った際のオーナーさんの言葉がとても衝撃的でした。
「昔は、家に帰ってご飯を一人で食べている子や、給食がないとご飯を食べることができない子なんて**いませんでした。近所付き合いが盛んで、お隣の家や近所で協力していたからです。**」
子育てが多様化し、難しさが露呈しつつある世の中で、**地域や近所でのつながり**の大切さを改めて痛感し、この研究活動を通して、こども食堂を媒体とし、軸とした**地域交流の活性化**を図ることの重要性を再確認しました。

「みんなが行けるこども食堂へ。」



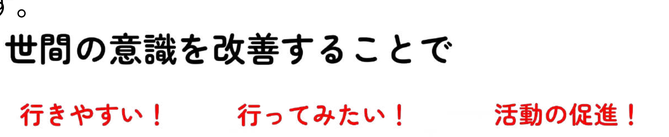
「こども食堂目的別マップの作成」

私達は、「こども食堂は貧困世帯の人が利用するものだ」という認識を改善するために、まずはこども食堂とはどんな場所なのかということを知ってもらおうと考えました。そこで、私達は「こども食堂目的別マップ」というものを作成しました。このマップには、そのこども食堂ではどういったサービスを提供されているのか、開催日時や料金、どのような雰囲気の食堂なのかということを主に掲載しました。たとえば、「どういったサービスを提供しているのか」については、
１みんなでご飯を食べる　２勉強をする　３食育をする
４地域交流の場所
の４つから当てはまる利用方法をすべて、こども食堂の代表者さんに選択してもらい、それをわかりやすくアイコンでまとめました。実際の図は右側に掲載してあります。この「目的」を掲載することによって、利用者側も、食堂の雰囲気や、ニーズに合わせて利用したい食堂を選ぶことができます。今回は、大阪府平野区にある６つのこども食堂さんにご協力いただき、取材させていただきました。

「マップ作成によって見込まれる成果」

このマップの作成の目的として初めに挙げた、「実際に足を運んでこども食堂の温かさを知ってもらい、**貧困世帯だけ**が利用しているわけではないという実情を知ってもらう」という目的の他に、**「より気軽にこども食堂に多くの人が足を運べるようにすること」**が挙げられ、貧困や複雑な事情によりこども食堂を利用されている方のカモフラージュになり、より多くの支援が必要な人が足を運びたくなる空気を目指します。（注①）
このように、私達の班では、こども食堂の運営側の改革ではなく、利用者の目線からの意識改革を軸に、活動しています。

世間の意識を改善することで



（注①）
人が少ないと…

利用者側（こども食堂を利用できるお子様を持つ家庭全体）
・安全性に疑問を持つ
・孤独感、疎外感を感じやすい
・知名度が低くなりやすく、そもそも興味を持ちにくい

地域の人々（上記の家庭以外の地域住民）
・人数の少なさにより、貧困世帯が利用するイメージが先行する可能性がある。

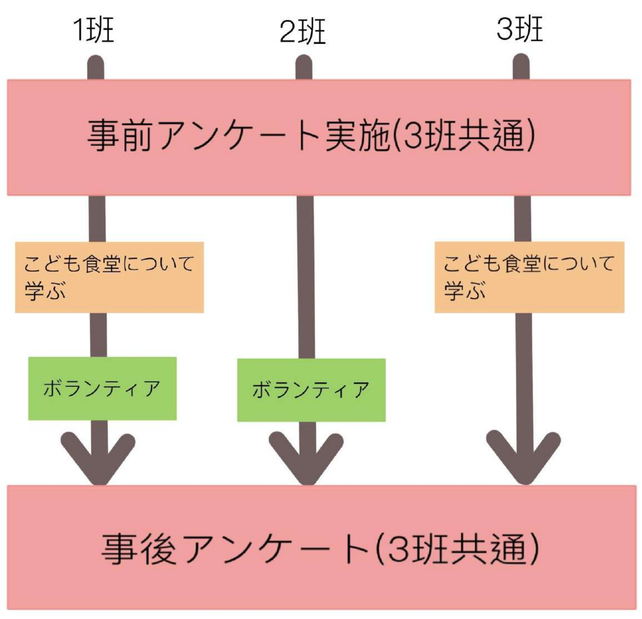
人が多いと…

利用者側（こども食堂を利用できるお子様を持つ家庭全体）
・子ども同士で繋がりができ、通ってみたくなる。
・同じ悩みを共有しやすい
・知名度や地域での社会的地位の向上により、興味を持ちやすい

地域の人々（上記の家庭以外の地域住民）
・貧困支援に加え、地域の憩いの場としてのイメージを持ちやすい。

「一歩を踏み出すきっかけに。」

今後の展望は、夏休みに本校高校二年生を対象とした実験を行います。この実験は、こども食堂の意識改善において効果的な方法について調べることを目的としています。
意識改善において、座学（右記・オレンジ）とボランティア（右記・緑）の2つの側面から効果を調べます。
それぞれの内容は、座学では、私達が作成したこども食堂の歴史や偏った認識の充満についてのプレゼンテーションを行い、効果を確かめます。
ボランティアでは、実際にこども食堂に出向き、ボランティア活動を行ってもらいます。
実験の流れとして、対象者約30名を、座学＋ボランティアを行う1班、ボランティアのみを行う2班、座学のみの3班に、それぞれ10人ずつ分けます。事前・事後アンケートは共通のものを3班とも行います。



＜今後の課題＞

これからの私達の課題として、
①調査対象が狭いということ。
②変化等を記録し、データ化、アナライズをすることが難しいということ。
が挙げられます。この課題に対して、①では、この実証の他に、他の世代を対象とした検証を考える、また②では実験の結果をポイント制にして数値化を図り、その数値やグラフから読み取れることをアナライズしていこうと考えています。

活動団体プロフィール

こども食堂へボランティアに行ったことがきっかけで、こども食堂を取り巻く偏ったイメージをを改善したいと決意。
支援が必要な方、地域住民の方、こども食堂運営者の方、三者がwin-win-winな関係になることを目標に日々奔走中。

メンバーは岡本栞奈、谷口侑歩、金子さき、吉川聡汰の計4名。
それぞれ一番力を入れていることは違うけど、こども食堂に対する想いは同じ。フィールドワークでは話題が途切れません。

実際に見て、聞いて、触れ合うことを大切に、お年寄りからこどもまで様々な人と交流します。こども食堂への取材やボランティアを通して、自分たちの凝り固まった考え方に気づいたり、童心を思い出したり、気づきの連続の中で、地域社会の『連繋』とはなにか、考え続けます。そしてまた足を運びます。